

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における阪南小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小  
学部第5学年の原則として全児童
- ・阪南小学校では、5年生 195名

## 3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体カテストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、  
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

阪南小

学校

児童数

195名

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.08	18.30	30.71	40.10	53.43	9.56	156.77	23.49	53.52
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.79	18.57	35.54	40.42	37.32	9.69	149.39	13.32	54.89
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

- ・体力合計点は、男女とも全国平均・大阪市平均を上回り、昨年度と比較しても大きく向上する結果となった。男子は、「握力」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の4種目、女子は、「握力」「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の7種目で全国平均を上回った。
- ・「1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子は7.8%、女子は15.7%と全国平均より約2%少くないものの、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問の肯定的な回答した児童は、男子では全国と同程度、女子は全国平均を約5%下回っており課題である。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- ・今年度は、日常的に体を動かす習慣の定着と運動に親しむ児童の育成を目標に、体育科授業及び様々な教育活動において、重点の一つとして取り組んできた。体育の授業では、授業の始めに「ドキドキタイム」を設定し、心拍数上がる運動を継続的に取り入れることで、運動量の確保、持久力の向上を図るとともに、体育学習に意欲的に取り組むことにつながった。また、児童の運動委員会が「マット週間」「なわとび週間」「かけあし週間」を企画運営し、学校全体で運動する機会を増やすことができ、休み時間にも自主的に、なわとび・かけ足に取り組む児童がみられるようになるなど、運動に主体的に親しむとともに、運動習慣の定着につながっている。
- ・今後も、運動場で活動できる休み時間の確保、今年度取り組んできた「ドキドキタイム」や運動委員会の運動週間の取り組みを継続して、日常的に体を動かす習慣の定着と運動に親しむ児童の育成を目標に児童の体力・運動能力、運動習慣の向上に取り組んでいく。